

新進気鋭の弦楽器奏者による

スーパークラシックアンサンブル

第7回

音楽の二大起源

2024年4月7日(日)

吹田市文化会館 メイシアター大ホール

主催:公益財団法人 吹田市文化振興事業団 堀江ファミリーコンサート
協力:日本音楽財団(日本財団助成事業) 大阪交響楽団

本日は、ようこそお越しくございました。みなさまに応援していただき、7回目の公演となります。

地元・吹田でこのような大きな演奏会を開催できますこと、とても嬉しく思っております。

また、本公演は日本音楽財団さまから助成金を頂戴しております。この場を借りて御礼申し上げます。皆さまにおかれましては、今後とも私たちスーパークラシックアンサンブルを「スクランブル」の愛称で親しんでいただければ幸いです。

さて、本日の演奏会を通じて、音楽の起源(歌と踊り)と、その発展を感じていただければと思います。まずは1曲目、2曲目と実際に歌や踊りを題材にした作品を聴いていただきます。そして続く3曲目と4曲目では作品の重要な部分を歌と踊りが担っています。

今では「世俗的」とされている歌や踊りこそが、そもそも音楽の起源であり、もともとは「世俗」と「芸術」の間に大きな垣根はなかった、というのが私の見解です。

スーパークラシックアンサンブル

代表 堀江恵太

ヴァイオリン

堀江恵太 谷本華子 吉岡克典 谷本沙綾 米井遥香

佐藤一紀 増永花恵 高崎真央 阿佐聖姫子 田中志和

ヴィオラ

東条慧 中田美穂 四家絵捺 前山杏

チェロ

大谷雄一 細谷公三香 吉田円香

コントラバス

黒川冬貴 ポール・ウェール

(敬称略)



いただきますをたのしく

Foods Market
satake
佐竹



CO.,LTD.

<https://satake-takenoko.co.jp>



オットリーノ・レスピーギ

リュートのための古風な舞曲とアリア 第三組曲

1. Italiana (イタリアーナ) Andantino
2. Arie di corte (宮廷のアリア) Andante cantabile
3. Siciliana (シチリアーナ) Andantino
4. Passacaglia (パッサカリア) Maestoso

フランク・ブリッジ

2つの古いイギリスの歌 H. 119

1. 「Sally in Our Alley (横丁のサリー)」
2. 「Cherry Ripe (熟したさくらんぼ)」

フランク・ブリッジ

弦楽のための組曲 H. 93

1. Prelude (前奏曲)
2. Intermezzo (間奏曲)
3. Nocturne (夜想曲)
4. Finale (終曲)

～～～休憩～～～

ヨゼフ・スーク

弦楽セレナード 変ホ長調 作品 6

1. Andante con moto
2. Allegro ma non troppo e grazioso
3. Adagio
4. Allegro giocoso, ma non troppo presto

O. レスピーギ:リュートのための古風な舞曲とアリア 第三組曲

レスピーギ(1897-1936)はイタリアのボローニャ出身の作曲家です。元々ヴァイオリンやヴィオラを弾いていました。交響詩「ローマ三部作」が有名です。

この曲はバロック時代の様式を使った『擬古典主義』の作品です。具体的には、16世紀などに作られたリュートのための作品(舞曲とアリア)を題材にしています。バロックの要素だけでなく、レスピーギならではの和声感や構築を感じていただけることでしょう。

1. **イタリアーナ (Italiana)** 一曲目に相応しいシンプルな三拍子の舞曲。チェロのピチカートがリュートの名残を見せます。
2. **宮廷のアリア (Arie di corte)** J.B. ベサールの作品(16世紀)による。ヴィオラの「歌」とチェロのピチカートから始まり、その主題が数種類の舞曲や歌に変化していきます。
3. **シチリアーナ (Siciliana)** 付点のリズムが特徴的な三拍子、シチリア地方の舞曲です。波の音、舟の揺れを彷彿とさせます。つのだ・たかしさんのリュート演奏で TVCM に利用された他、平原綾香さん歌唱つきもリリースされる等、様々な編曲で知られています。原曲の作者は不明(16世紀)。
4. **パッサカリア (Passacaglia)** L. ロンカッリ(1692年)による。同じベースラインの上、変奏曲のように展開していきます。2拍目に「重心がある」三拍子の舞曲。シャコンヌとよく似ています。古典派以降、しだいに舞曲の要素が少なくなり、単に「変奏曲」という意味合いで使われるようになります。(ブラームスの交響曲第4番第4楽章などが有名)

F. ブリッジ:2つの古いイギリスの歌 H.119

ブリッジ(1879-1941)は、イギリスの作曲家。ヴィオラ奏者としてイギリス弦楽四重奏団にも参加していました。ヨーロッパ大陸のさまざまな音楽に刺激を受け、独特の和声感など、独自の前衛音楽をつくり上げました。存命中はブリテンの恩師として知られるのみでしたが、近年評価が高まっています。

この作品は伝統的なイギリスの流行歌を題材にブリッジが和声や対旋律をつけています。元の歌が日本では有名でないため、トークの際、実際に演奏して紹介するのでご安心ください。メロディーが見え隠れしたり、突然の転調をしたりと、とても興味深い構成になっています。

- 1.「**横丁のサリー (Sally in Our Alley)**」は、1725年に H. ケアリーによって書かれたイギリスの歌です。後に、英国ポピュラー音楽のスタンダードとなりました。Sally と Alley できれいな韻を踏んでいます。
(歌詞大意) この街の女の子はみんな聡明だけど サリーほど美しい人はいません。
最愛の人(サリー)は 私たちの横丁に住んでいます。
この国に サリーほどの淑女はいません。 彼女は横丁にいます。
- 2.「**熟したさくらんぼ (Cherry Ripe)**」は、R. ヘリック(1591-1674)の詩に、C. E. ホーン(1786-1849)が作曲した歌です。「さくらんぼ」が「少女」を、「熟した」が「赤くふっくらした唇」を含意しています。
(歌詞大意) 熟れたさくらんぼ!いかがです? かごいっぱい高品質!買って行って!
私の恋人がいるあの島で育ったさくらんぼ!あたり一面がさくらんぼ園。

F. ブリッジ:弦楽のための組曲 H.93

ブリッジの独特な和声に慣れ親しんでいただいたところで、今回イチオシの作品を聴いていただきたいと思います。「組曲」はそもそも、(1曲目(レスピーギ)のように)舞曲とアリアを集めた形式です。しかしこの作品は「前奏曲」「間奏曲」「夜想曲」「終曲」と、組曲の中で、舞曲の前後に置かれ、場面転換や踊り手を休ませるための曲のみで構成されています。

1. 物語が始まる前の「プレリュード」。作品の世界観へと導き、これからを予感させる。弦楽合奏の特性を効果的に使った響きをお楽しみください。
2. 「間奏曲」は遊び心に満ちたスケルツォのよう。軽やかで上品な冒頭から、中間部はマルカート(パリッとした)のキャラクター。
3. 「夜想曲」はタイトルの通り、静かに物思いに耽っています。チェロとヴィオラのソロにも注目。
4. 「終曲」は軽やかながら勢いのある冒頭。心どよめく情熱の中間部。そして華やかなフィナーレへ。

J. スーク:弦楽セレナード 変ホ長調 作品 6

本日のメインプログラムとなります。スーク(1874-1935)はチェコの作曲家です。ボヘミア四重奏団(後のチェコ四重奏団)の第二ヴァイオリン奏者も務めており、主に同郷の作曲家たちの作品を演奏していました。

プラハ音楽院でドヴォルザークに学んでいたスークは卒業の頃(1892年)、師の別荘に招かれ、作曲のアドバイスを受けました。その際、彼の娘を紹介され、スークは一目惚れをし、後に彼女と結婚します。そんな時期に書かれた作品です。才能ある青年の創意工夫、トキメキ溢れた希望、そしてチェコの空気が感じられます。

第1楽章はまさに、心のトキメキ、ほとぼしる想い。構成はシンプルで、「序奏」のような位置づけ。

第2楽章はワルツのような3拍子。美しい中間部のあとはホルンを思わせるマルカート。

第3楽章はまるで「夜想曲」。チェロのソロに始まり、星空の下、思いの丈を歌います。

第4楽章は「giocoso(おどけて、楽しく)」とあるように、まるで浮足立ったスーク本人のよう。途中「コーラル(合唱)」のような部分は、楽しさの中に真摯な一面が垣間見えます。

(文責 堀江恵太)

豊かな地域づくりのお手伝い。〈あましん〉

地域の **文化**・**教育**・**環境** など、
元気な地域づくりに貢献します。



 尼崎信用金庫
AMASHIN

<https://www.amashin.co.jp>

〈1stヴァイオリン〉



☆堀江 恵太 当アンサンブル主宰。北野高校 123 期卒。「佐渡裕とスーパーキッズ・オーケストラ」に 7 年間に在籍。京都市立芸大を首席で卒業し、ウィーン国立音大修士課程を最優秀で修了。横浜国際コンクール部門第 1 位、吹田ティーンズクラシック貴志康一賞など受賞。(公財)青山財団奨学生。「アーツサポート関西」助成者。トビリシ音大オケ(ジョージア)、日本センチュリー交響楽団などと共演。これまでにヴァイオリンを北淳子、松田淳一、G. バブアゼ、L. ソロコフ、R. キュッヒル、室内楽を A. クムジャン、J. マイッスルの各氏に師事。大好きな室内楽に情熱を燃やしている。関西フィルハーモニー管弦楽団アソシエイト・コンサートマスター。



◎谷本 華子 桐朋学園大学ソリストディプロマコースを経て、ロームミュージックファンデーションの奨学金を受賞し、カナダ・ブランドン大学へ留学。カナダナショナルヴァイオリンコンクール第 2 位、シェーン ヴァイオリンコンクール第 1 位、21 世紀協会賞、大阪府知事賞、クリエイティブクラブ音楽賞等多数の受賞を重ねる。現在、ソロや室内楽を中心に、長岡京室内アンサンブル、いずみシンフォニエッタ大阪、東京バロックプレイヤーズ、Music Dialogue アーティストのメンバーとして活動するほか、兵庫県立西宮高校音楽科特別非常勤講師、宝塚ミュージックリサーチ顧問として後進の指導にも努める。公式ホームページ <http://hanakotanimoto.com>



吉岡 克典 3 歳よりヴァイオリンを始める。兵庫県立西宮高校音楽科卒業。桐朋学園ディプロマコースを経て渡欧、チェコ(プラハ)にて学ぶ。2005 年プラハでリサイタルを開催後帰国。2006 年大阪交響楽団(前大阪シンフォニカー交響楽団)入団(1st violin)。主な賞歴に、全日本学生音楽コンクール大阪大会 1 位をはじめ、多くの賞を受賞。これまでに、故江藤俊哉、江藤アンジェラ、稲垣琢磨、稲垣美奈子、脇田稔、P. クデラーシェク(プラハ)各氏に師事



谷本 沙綾 第 72 回全日本学生音楽コンクール高校の部全国大会第 1 位 併せて横浜市民賞その他多数受賞。「佐渡裕とスーパーキッズ・オーケストラ」に 8 年間に在籍。これ迄に京都祝祭管弦楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、千里フィルハーモニア大阪などと共演。2019、20 年度アーツサポート関西に助成を受ける。2021 年度公益財団法人青山音楽財団奨学生。2022 年 ドイツ フライブルク音楽大学にて研鑽を積む。これ迄に前谷純子、村瀬理子、曾我部千恵子、Muriel Cantoreggi、大谷玲子、小栗まち絵の各氏に師事。相愛大学音楽学部を 3 年次に首席で早期卒業し、学長賞受賞。同大学大学院音楽研究科修了。現在、関西を中心にソロや室内楽、オーケストラで活動している。



米井 遥香 兵庫県立西宮高校音楽科、京都市立芸術大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了。修了時に第 42 回読売中部新人演奏会に選抜され出演。第 6 回日本芸術コンクール第 2 位、第 16 回長江杯国際音楽コンクール第 3 位(いずれも 1 位なし)。第 19 回演奏家コンクール入選。小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト、セイジ・オザワ松本フェスティバル「子どものための音楽会」等に参加。これまでにヴァイオリンを萩由美子、景山映子、加納千春、池川章子、梅原ひまり、中島慎子、四方恭子の各氏に師事。

〈2nd ヴァイオリン〉



◎佐藤 一紀 京都市立芸術大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修了。パリにて現代音楽を中心に研鑽を積む。兵庫芸術文化センター管弦楽団(HPAC)第 1 期コアメンバー、長岡京室内アンサンブルメンバー、いずみシンフォニエッタ大阪、各メンバーとして活動。パリ、フガートアソシエーション弦楽講習会、ニューヨークヴァイオリン サミット教授として、また国内外の主要オーケストラのコンサートマスターとしても招聘されている。現在、相愛大学音楽学部、及び大学院非常勤講師を務める。KOTO Quartet、TAKE★SAT'ellico も結成、活動の場を広げている。M.オークレール、R.パスキエ、M.le.ディゼス、S.ルセフ、A.モッチアの各氏に師事。



増永 花恵 新潟市出身、吹田市在住。東京藝術大学付属音楽高校、同大学音楽学部器楽科卒業。大学卒業後、森悠子氏の下研鑽を積み、長岡京室内アンサンブルにて多くの経験を積む一方、兵庫芸術文化センター管弦楽団にて 7 年間契約団員としてオーケストラでの演奏機会を得る。これまでに久保田良作、澤和樹、W.マルシュナー、森悠子、高橋孝子の各氏に師事。新潟県音楽コンクール最優秀賞、第 7 回「長江杯」国際音楽コンクール弦楽器一般の部第 1 位受賞。2016 年より関西フィルハーモニー管弦楽団、第 2 ヴァイオリントップ奏者を務める。アルゴ弦楽四重奏団メンバー。ホームページ <https://masunagamusic.art/>



高崎 真央 大阪音楽大学卒業、卒業演奏会に出演。大学より給付奨学金を得てワイマール・フランチスト音楽院、またfolkヴァング芸術大学に留学。ヴァイオリンを久合田緑、辻久子、宗倫匡、北浦洋子、ヤチエック・クリムキューヴィッチの各氏、室内楽をエフゲニー・シナイスキ、クラウス・シュトルクの各氏に師事。第三回全日本芸術コンクール第二位。第三回クオリア音楽フェスティバルオーデション大学生の部第一位。「佐渡裕とスーパーキッズ・オーケストラ」の第一期生。2014年～2018年、ドイツ・ブラウンシュヴァイク州立管弦楽団に所属。



阿佐 聖姫子 桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業後、ドイツへ渡り、ニュルンベルク音楽大学大学院修士課程弦楽器科を首席修了。在独中、ドイツ・バイエルン州にある2つのプロオーケストラにて研鑽を積む。これまでにソリストとしてオーケストラとの共演やソロリサイタルなど、国内外で多数のコンサートに出演。帰国後はソロ・室内楽・オーケストラ等、幅広く演奏活動を行っている。桐朋学園大学音楽学部附属子どもへの音楽教室(茨木教室)非常勤講師。これまでにヴァイオリンを参納悦次郎、西和田佑、原田幸一郎、ヴァレリー・ルービンの各氏に師事。室内楽を毛利伯郎、ディルク・モメルツ、ベルンハルト・シュミットの各氏に師事。



田中 志和 島根県出身。2000年生まれ。京都市立京都堀川音楽高等学校を経て、京都市立芸術大学を卒業。第19回関西弦楽コンクールにて優秀賞ならびに審査員賞受賞。第24回KOBE国際音楽コンクール弦楽器B部門において最優秀賞ならびに兵庫県知事賞受賞。第31回ブルクハルト国際音楽コンクール弦楽器部門審査員賞受賞。2023年セイジ・オザワ松本フェスティバルの公演にてコンサートミストレスを務める。ヴァイオリンを高橋美穂、芦原充、池川章子、漆原朝子、四方恭子、戸上真里の各氏に師事。ビオラを丸山奏、細川泉の各氏に師事。

〈ヴィオラ〉



◎東条 慧 山梨県出身。パリ国立高等音楽院、ハンス・アイスラー音楽院、ベルリン芸術大学を卒業。東京や英・米などの国際ヴィオラコンクールで上位入賞。ベルリンフィルハーモニー管弦楽団や、客演首席としてパリ管弦楽団やバイエルン放送交響楽団などで演奏するほか、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭、マルボロ音楽祭など世界各地の音楽祭にも招待され、幅広く活動している。ソリストとして兵庫芸術文化センター管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、ブルーノート東京にて上原ひろみらと共演。デンマーク王立管弦楽団第一首席ヴィオラ奏者、デンマーク国立放送交響楽団第三首席(契約)を経て、2023年秋よりベルリン・ドイツ交響楽団副首席(契約)を務める。



中田 美穂 相愛大学音楽学部卒業。Vnを西村順吉、田川佐麻里、小栗まち絵の各氏に師事。卒業後、Vlaに転向し、森悠子、Aki Saulier、成田寛の各氏の元でヴィオラ及び室内楽の研鑽を積む。国内外の数々の音楽祭・演奏会に出演。2003年より長岡京室内アンサンブルのVla奏者として数々の演奏会・録音に参加。ヴィオラスペース2016に出演。また、オリジナルVla奏者として、オルケストル・アヴァンギャルド、弦楽四重奏団「Just our two cents」他で活躍。モダンVla奏者として、東京バロックプレイヤーズ、弦楽四重奏シリーズ「羽糸で紡ぐ十六弦」他で活動の幅を広げている。



四家 絵捺 8歳よりヴァイオリンを、15歳よりヴィオラを始める。東京音楽大学付属高校在学中に奨学金を得てバイエルン州立青少年オーケストラのツアーに参加。京都市立芸術大学を卒業。小澤征爾音楽塾塾生として、オペラ・プロジェクト、セイジ・オザワ松本フェスティバルに参加。在学中よりプロオーケストラへの客演、室内楽、レコーディング等の演奏活動を開始し、22年11月からは、大阪交響楽団ヴィオラ副首席奏者を務める。X(旧Twitter)アカウント: @kainatter



前山 杏 京都市立芸術大学音楽学部弦楽専攻をヴァイオリンで卒業。大学にて豊嶋泰嗣氏に師事。PhoenixOSAQA、小澤征爾音楽塾に参加。第33回摂津音楽祭リトルカメラコンクール銀賞、聴衆賞を受賞し、日本センチュリー交響楽団と共演。第25回KOBE国際音楽コンクール優秀賞。2019年度青山音楽財団奨学生。大学2回生でヴィオラに会い、ヴィオラスペース東京マスタークラス、プロジェクトQ第17章に参加。これまでに小峰航一、井野邊大輔の各氏に師事。兵庫県立芸術文化センター管弦楽団ヴァイオリン奏者を経て、2023年4月より京都市交響楽団ヴィオラ奏者。

〈チェロ〉



◎大谷 雄一 国立音楽大学卒業。チェロを小野崎純、藤森亮一、ナサニエル・ローゼン、クライヴ・グリーン、スミス各氏に師事。2001年、エラン弦楽四重奏団を結成。第4回大阪国際音楽コンクール・アンサンブル部門、優秀賞、文化奨励賞、理事長賞。第5回日本アンサンブルコンクール、最優秀演奏者賞。第9回JILA音楽コンクールで室内楽部門第1位。2005年、PMF弦楽四重奏コースに参加。東京クァルテットの指導を受けるとともに、そのメンバーとブラームスの六重奏を共演。現在、大阪交響楽団首席チェロ奏者。



細谷 公三香 兵庫県出身。ヴェローナ国立音楽院に学び、首席で卒業。イタリアにて数々の室内楽コンクールで優勝、アレナ・ディ・ヴェローナ管弦楽団と共演する。その後ザルツブルクモーツァルテウム大学院、ミュンヘン音楽大学にて更に研鑽を積む。これまでに兵庫芸術文化センター管弦楽団、オーケストラジャパンに在籍し、ザルツブルグ音楽祭、アフィニス音楽祭に参加。現在は定期的にソロリサイタルを行う他、全国各地のオーケストラに客演、室内楽シリーズの参加、2023年には第29回丹波の森国際音楽祭“シューベルティアータンバ”のシンボルアーティストを務めるなど幅広く音楽活動を行っている。(公財)兵庫県芸術文化協会登録アーティスト、KOBE パッサ合奏団メンバー。



吉田 円香 大阪市出身。京都市立芸術大学音楽学部卒業後、渡独。ケルン音楽大学修士課程にてヨハネス・モーザー氏のもとで研鑽を積み、最優秀の成績で修了。その後カッセル州立劇場にてアカデミー生、期間契約団員を務める。2018年に活動拠点を日本に移し、兵庫芸術文化センター管弦楽団にてレジデントプレイヤーを務める。2019年帰国記念リサイタルを開催。2021年文化庁/(公社)日本演奏連盟主催のリサイタル・シリーズに出演。2023年NHK FM「リサイタル・パッション」に出演。現在は関西を中心にフリーランス奏者として演奏活動を行っている。公式サイト <https://madoka-cello.weebly.com>

〈コントラバス〉



◎黒川 冬貴 滋賀県守山市出身。滋賀県立石山高校音楽科を卒業後、渡独。国立フランクフルト音楽大学にて研鑽を積む。これまでに西出昌弘、G・クラウス、西口勝各氏に師事する。シュペルガー国際コンクール3位、特別賞。DAAD(ドイツ学術交流会)コンクール2位、特別賞受賞。アジア・ユースオーケストラ(AYO)、兵庫県立芸術センター管弦楽団(PAC)で共に首席奏者をつとめる。大阪フィルハーモニー交響楽団コントラバストップ奏者をへて、2011年1月より京都市交響楽団首席コントラバス奏者。



ポール ウェール アメリカのインディアナ州出身。インディアナ大学ブルミントン校音楽学部コントラバス専攻卒業。Bruce Bransby氏に師事。奨学金を得てコロラド州で開催されたアスペン音楽祭参加。2008-2011年兵庫芸術文化センター管弦楽団在籍。卒団後サウスバンド交響楽団、カラマズー 交響楽団の契約団員を経て再び来日し、関西を拠点にソロ、室内楽、オーケストラなど多数の演奏会に出演。2023年12月より関西フィルハーモニー管弦楽団正式入団。

☆ コンサートマスター

◎ 首席奏者